

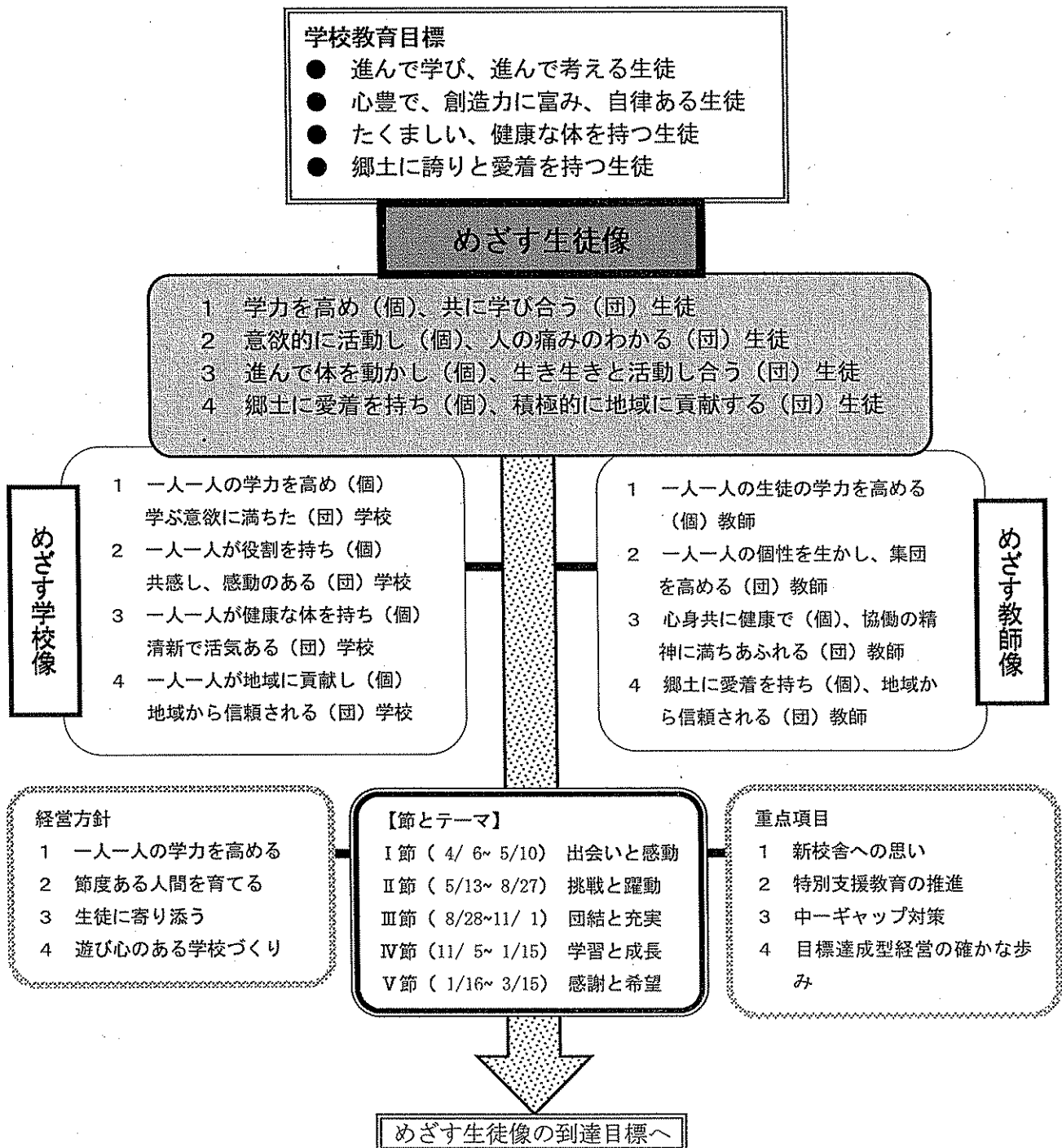
1 めざす姿の構造図

<経営の基本理念>

学校の役割は、一人一人の学力を高めること、心身共に健全な生徒を育てることである。そして、集団生活を通し、他と関わる力、他を思いやる力など、社会性を身につけさせることである。そこで、今年度の経営の柱は、生徒個々の力を高めながら、集団を高めることとする。

<経営のキーワード>

『 個と団 』（個を高める 集団を高める ～一人一人の力を全体の力へ～）



2 めざす生徒像の到達目標

めざす生徒像に迫るためには、学校教育目標に掲げた4つの観点「知」「徳」「体」「郷土愛」に基づいて具体的なイメージを構築し、生徒・教職員・PTA・地域住民等、本校教育に関わる全ての人々の共有化が必要である。

そこで、めざす生徒像の具体的なイメージを各分掌（各学年）で作成することで、どのような手立てで指導していくか計画を立案する際の道標とする。その際、目標達成型の指導を念頭に、具体的なイメージについて数値化できるものは数値化し、アンケート集計結果で示される到達目標として以下のように設定している。

めざす生徒像の到達目標

学力を高め、共に学び合う
「知」

意欲的に活動し、心の痛みがわかる
「徳」

進んで体を動かし、生き生きと活動し合う
「体」

郷土に愛着を持ち、積極的に地域に貢献する
「郷土愛」

個	教師の話や他の発表（考え）をよく聞く生徒	90%
	学習課題に対し、自分の考えを持って臨む生徒	80%
	授業内容を理解する生徒	80%
	学力を向上させる目的で、家庭学習に取り組む生徒	80%
	効果的な家庭学習の取り組み方がわかる生徒	80%
	「学び合い」により、他と自分の考えを交え合う生徒	80%
団	「学び合い」により、授業内容を理解する生徒	80%
	共に学ぶ楽しさや良さを感じる生徒	90%
	自分自身でよく考え、物事の善悪を判断する生徒	90%
個	常に自分の行動に責任を持つ生徒	80%
	我慢強く、自分の限界を伸ばす生徒	80%
	人の気持ちを考えた言動をする生徒	90%
	服装、身なりを整えた生活をする生徒	80%
	清掃時間を有効に使い、常にすみずみまできれいにする生徒	90%
	礼儀、礼節をわきまえ、場面に応じた行動をする生徒	90%
	仲間を支える、支えられる関係を築く生徒	80%
団	より良い学校生活を目指し、生徒会活動に意欲的に取り組む生徒	90%
	みんなで決めたことを尊重し、責任をもって実践する生徒	80%
	思いやりの心を持って仲間と関わり合う生徒	80%
個	体を鍛える大切さを理解し、そのための活動を意欲的に行う生徒	90%
	手洗い、うがいなどを積極的に行い、病気の予防に努める生徒	90%
	睡眠、栄養、運動の大切さを考え、バランス良く生活する生徒	90%
	仲間と励まし合い、部活動や合同トレーニングに積極的に取り組む生徒	90%
	互いに声をかけ合い病気の予防に努める生徒	90%
個	総合的な学習の時間において、意欲的に課題を設定し、追求する生徒	90%
	郷土の良さを実感し、心を込めて創作劇づくりに取り組む生徒	90%
	村民としての自覚を持ち、村や地域の行事に積極的に参加する生徒	80%
団	共通課題を持つ仲間と協力し、地域の歴史や文化を追求し合う生徒	90%
	自分の仕事に責任を持ち、全校一丸となって創作劇をつくり上げる生徒	90%
	地区奉仕活動へ前向きに参加し、地域環境の向上に努める生徒	90%
	「田野畑学講座」へ積極的に参加し、地域の食文化を理解する生徒	90%

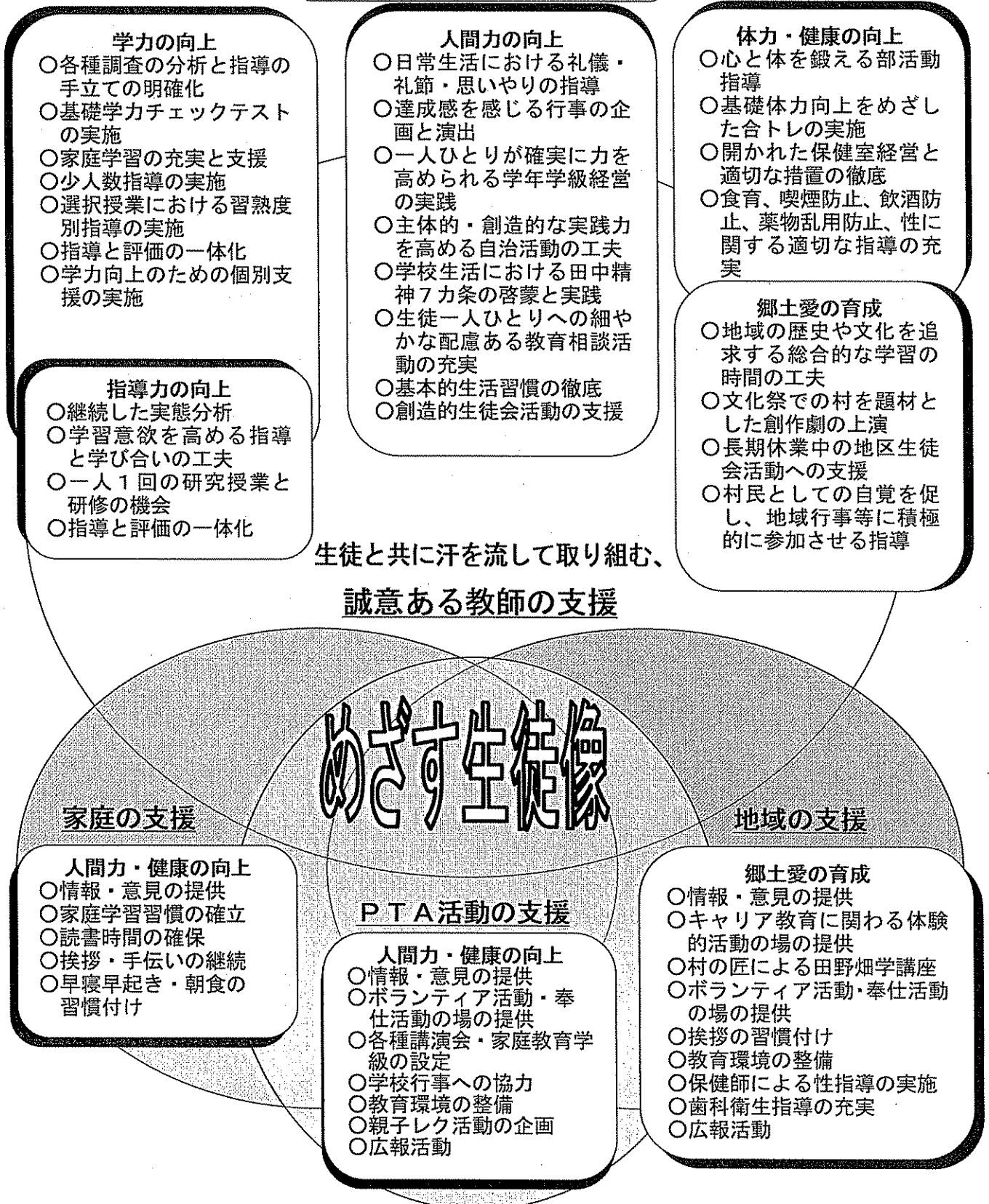
・『まなびフェスト』として年度初めに提示
・めざす生徒像に迫るための具体的手立て（実行策）へ

3 支援の側面と具体的手立て

めざす生徒像の具体的なイメージ（到達目標）に沿って、それら目標の実現に向け、保護者や地域の方々との協働により積極的に支援を行う。本校では、生徒と共に汗を流して取り組む「誠意ある教師の支援」を中心に、「家庭の支援」「PTA活動の支援」「地域の支援」等により、生徒の資質や能力を具体的手立て（実行策）によって向上・育成していきたいと考えている。

以下に、その支援内容と具体的な手立て（実行策）を図で示す。

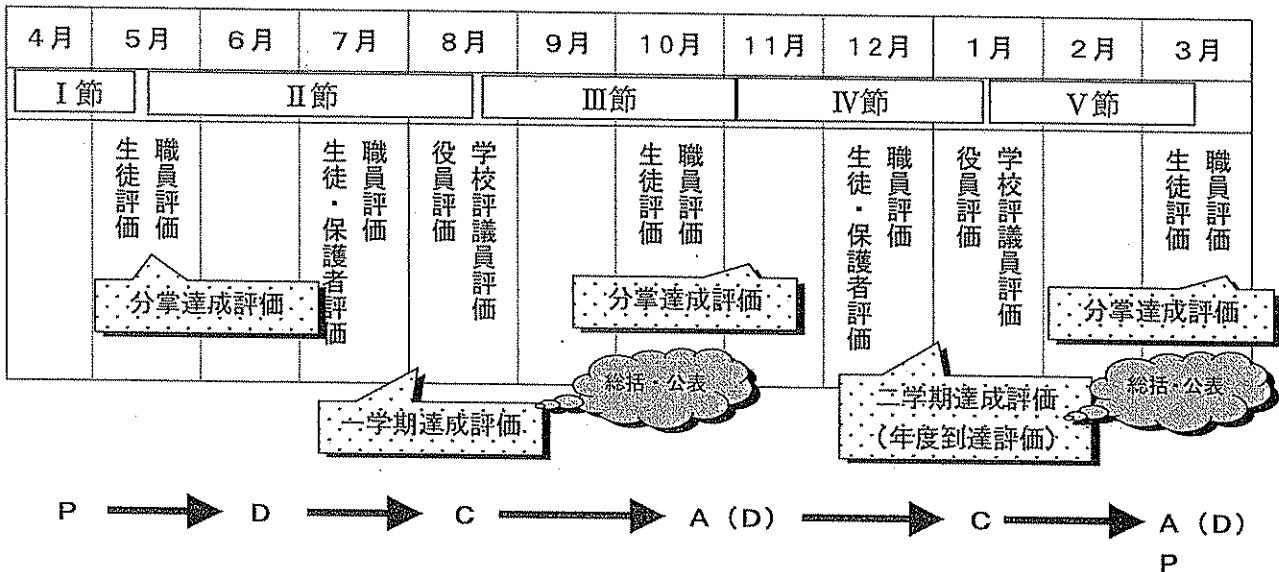
実行策構想図



4 学校評価システム

(1) 評価時期

年間を以下の図のように5節に分け、それぞれの節にテーマを持ちながら、具体的な手立て（実行策）を施した後、職員、生徒、保護者、PTA役員、学校評議員を対象とし、評価に関するアンケートを実施する。



(2) 評価方法

- ・評価は、一学期（Ⅰ～Ⅱ節）と二学期（Ⅲ～Ⅳ節）の二期制とする。
- ・評価項目に対する回答の仕方は、個人の変容を把握するために以下の通りとする。
「できるようになった」「良くなった」
「以前と変わらない」「悪くなった」
- ・学年主任および学級担任は、（学校経営計画と同様の方法で）学年生徒や学級生徒の実態に即した到達目標・達成目標を明らかにし、学年経営案や学級経営案を作成する。計画・実践・評価・改善のサイクルで実践に当たる。
- ・職員個々についても、（個々の役割に応じて）学級経営や教科経営における到達目標・達成目標を設定する。（勤務状況確認シートに記載）

5 総括と公表

評価アンケートを実施した後、その結果について下図の内容で分析を行い、実践した内容について総括する。総括結果については、校報や各懇談会、PTA役員会、学校評議員会等を通じて公表し、学校の実行策及び実践についての意見や要望を求める。

総括内容と公表後の意見・要望を基に、三学期には、次年度に向けての組織マネジメントや改善実践・準備実践・仮説実践に取り組む。

